

新千歲市史

通史編 上卷



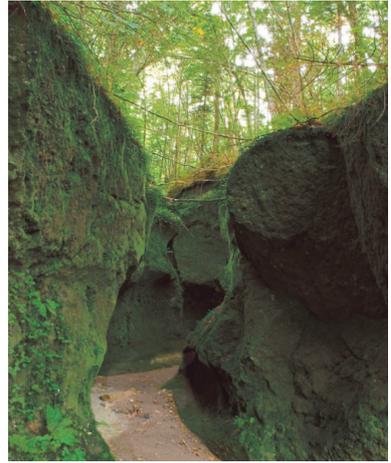
今から4万2,000年前の支笏火山の噴火により、直径12^{km}のカルデラ湖（支笏湖）が生まれた。噴出した火山灰は遠く十勝まで達した。



千歳市街



オコタンベ湖



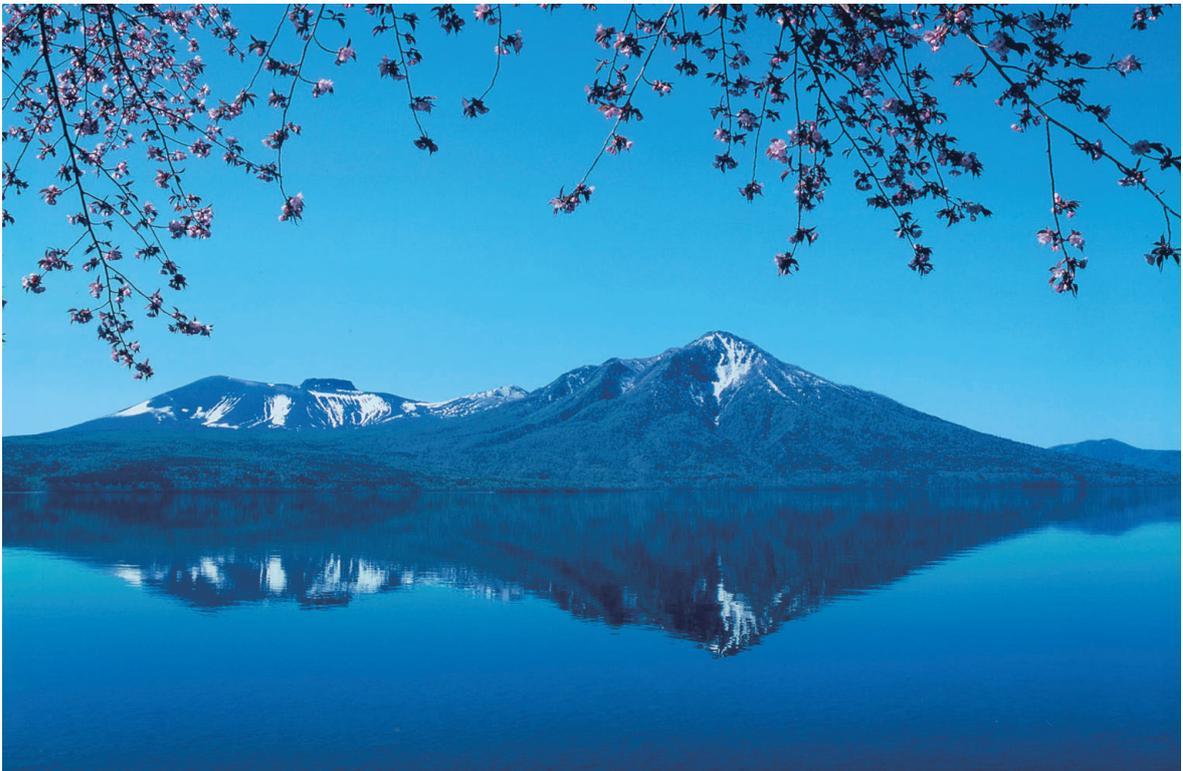
苔の洞門

巨木の森



美笛の滝

春の支笏湖と樽前山、風不死岳
(津幡孝行撮影)





- ←表 土
 - ←樽前 a 軽石層 (1739年) = Ta - a 層
 - ✓樽前 b 軽石層 (1667年) = Ta - b 層
 - ←第 I 黒色土層 = I B 層

 - ←樽前 c 軽石層 (約3,000~2,500年前) = Ta - c 層
 - ←第 II 黒色土層 = II B 層
 - ←樽前 d 軽石層 (8,900年前) = Ta - d 層
 - ←第 III 黒色土層 = III B 層
 - ←恵庭 a 風化ローム層 = En - L 層

 - ←恵庭 a 軽石層 (約19,000年~16,000年前) = En - a 層

 - ←ローム質粘土層
 - ←羊蹄第 3 軽石・スコリア層 = Yo. Ps - 3 層 (約28,000年前)
 - ←支笏軽石流堆積物 (約42,000年前 = Spf 1 層)
- 美沢 1 遺跡・周堤墓
2,410 ± 100y. B. P.
(Gak - 7761)

3,790 ± 130y. B. P.
(Gak - 7762)

美沢 4 遺跡第 1 貝塚
5,480 ± 105y. B. P.
(N - 3668)

植苗貝塚
5,640 ± 100y. B. P.
(N - 4372)
- 美々 5 遺跡
17,090 ± 520y. B. P.
(Gak - 7764)

美々 5 遺跡
24,850 ± 2,900y. B. P.
(KSU - 370)



美々 4 遺跡の縄文晩期初頭の盛土墳から発見された動物形土製品 (重要文化財)

新千歳空港周辺の土層

活発な火山活動により千歳市内には火山灰が厚く堆積している。
下から支笏火山、羊蹄山、恵庭岳、樽前山が噴火した際に噴出した火山灰
(北海道埋蔵文化財センター提供、一部加筆)



史跡キウス周堤墓群 (北海道埋蔵文化財センター提供)



縄文後期（3,200年前）の集団墓地、周堤墓の発掘風景。美々4遺跡（北海道埋蔵文化財センター提供）。

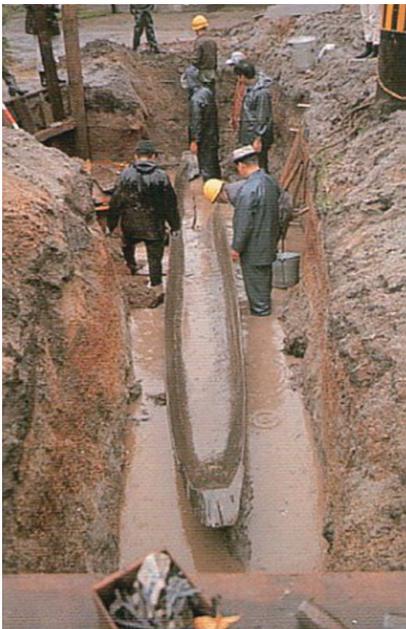


縄文晩期の土壙墓に副葬された土製仮面。重要文化財（北海道埋蔵文化財センター提供）。



オホーツク式土器、ウサクマイ N 遺跡（北海道埋蔵文化財センター提供）

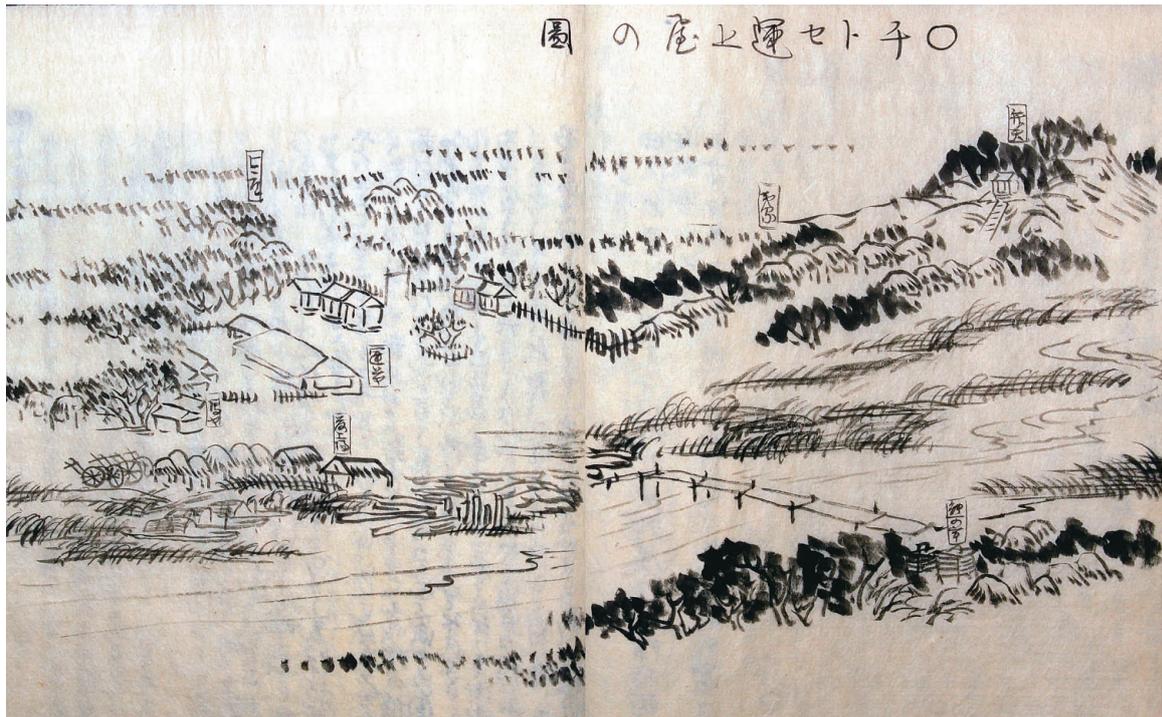
富壽神寶、ウサクマイ N 遺跡（北海道埋蔵文化財センター提供）



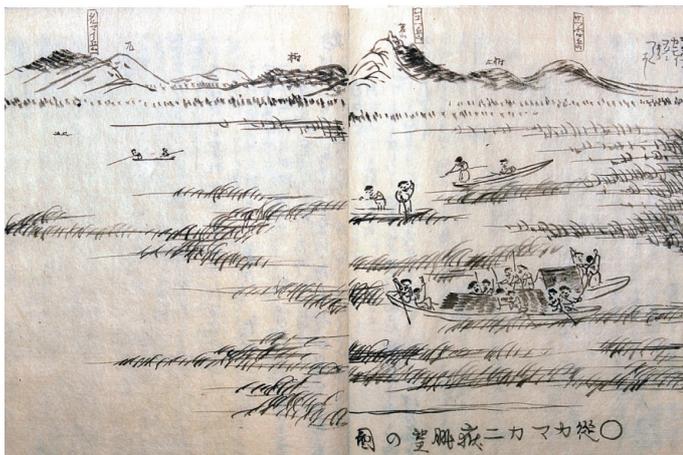
朝日町で下水道工事によって発見された350年程前の丸木舟



干拓前のオサツトー（長都沼）。鳥の飛来地だった



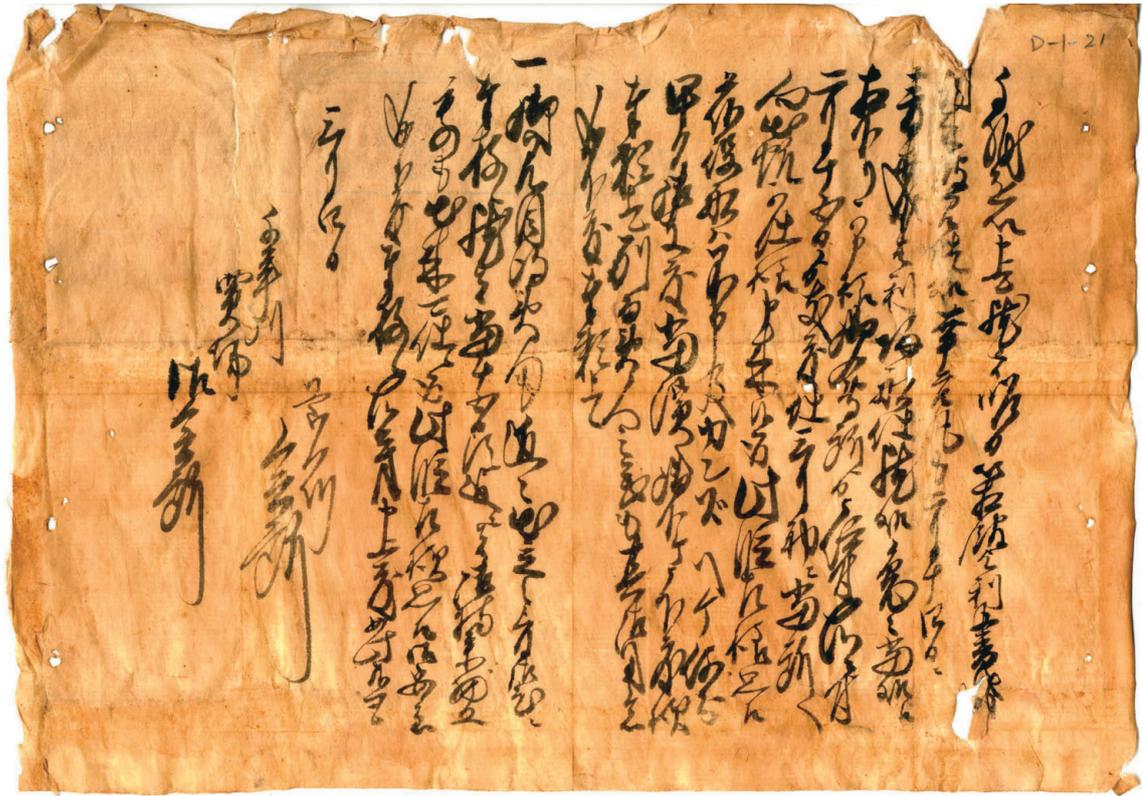
チトセ運上屋の圖『再航蝦夷日誌 卷之七』(松浦武四郎記念館所蔵)



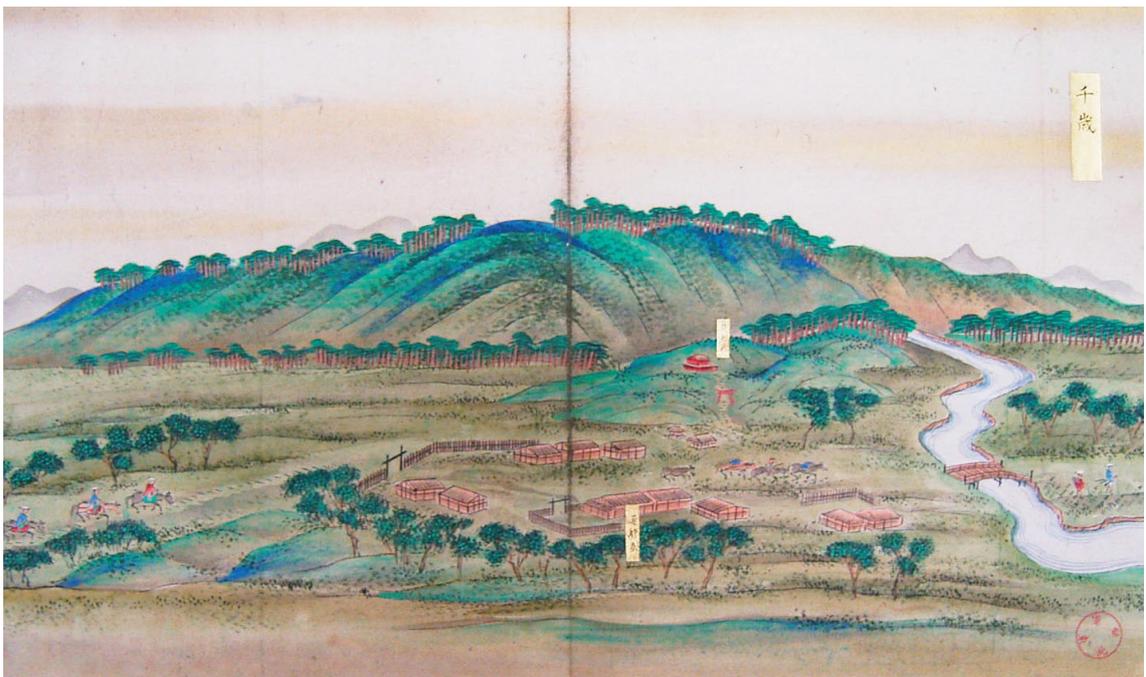
從カマカニ嶽眺望の圖
『再航蝦夷日誌 卷之七』
(松浦武四郎記念館所蔵)



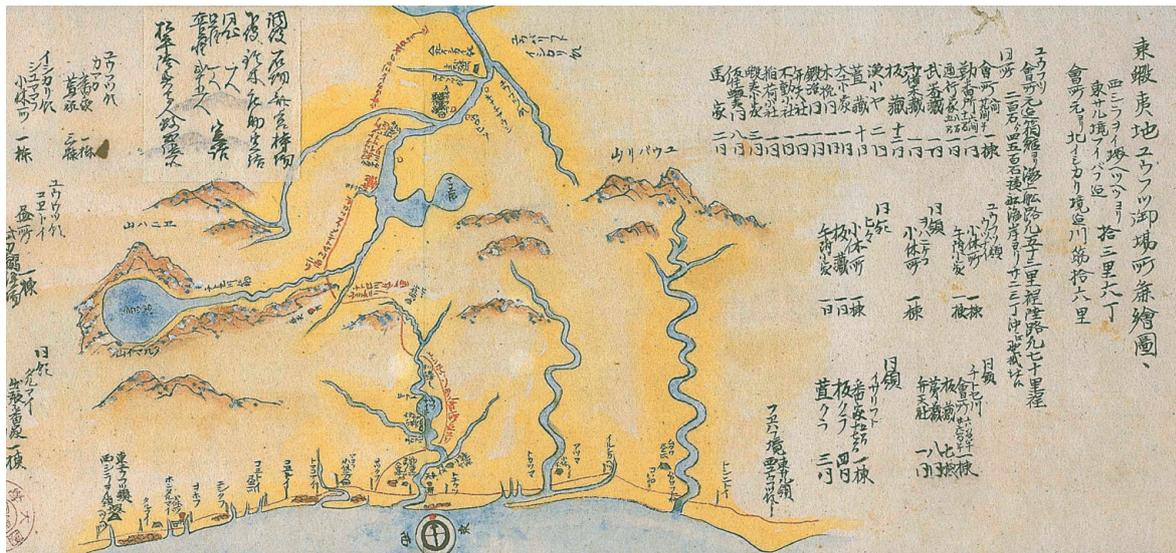
ユウバリ嶽從千歳弁天社眺望の圖
『再航蝦夷日誌 卷之七』
(松浦武四郎記念館所蔵)



ユウフツ会所から千年川買場会所に宛てた書簡・文化2～5（1805～07）年頃と推定
 (札幌市文化資料室所蔵『高澤家文書』)



幕末期の千歳が描かれた鳥瞰図
 (目賀田帯刀「北海道歴検図 胆振州(下)」北海道大学附属図書館所蔵)



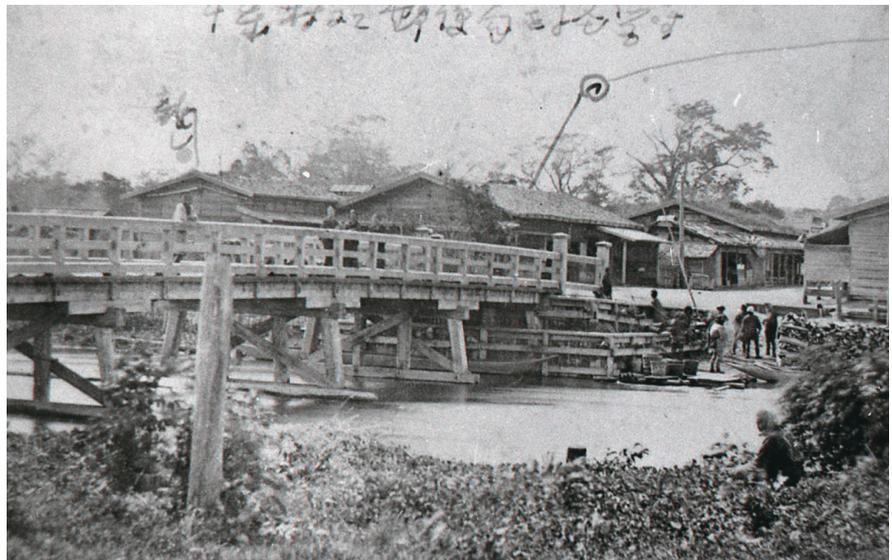
幕末期のユウフツ (「東蝦夷地ユウフツ御場所絵図」北海道大学附属図書館所蔵)



胆振国千歳郡千歳原野区画図 明治27 (1894) 年 (恵庭市郷土資料館所蔵)



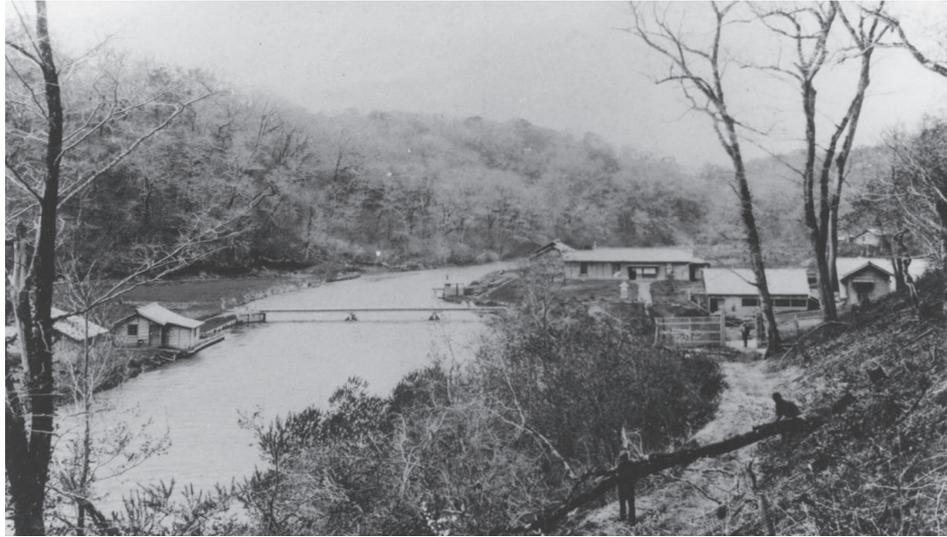
明治20年代の千歳小学校。後列右から
学務委員石山専蔵、戸長三木勉、訓導
小笹久吉



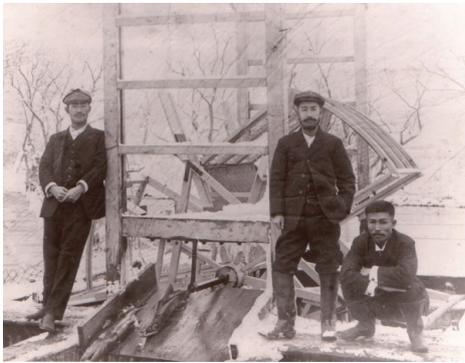
明治20（1887）年頃の千歳橋



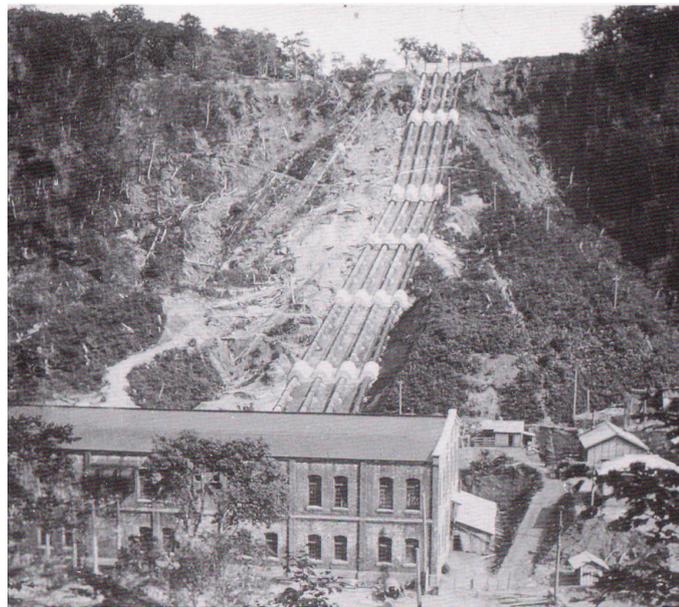
殖民地選定
千歳原野における北海道庁殖民課による殖民地選定事業の測量隊
明治26（1893）年
（北海道大学附属図書館所蔵）



千歳ふ化場（明治21年頃）



捕魚車（インディアン水車）
アメリカ西海岸の視察を終えた伊藤一隆はコロンビア川水系で使用されていた捕魚車を親鮭捕獲のため千歳川に設置した。明治29（1896）年



王子製紙第一発電所
支笏湖に源を発する豊富な水に注目した王子製紙は千歳川に発電所を建設した（明治43年頃）



王子軽便鉄道「山線」と木橋
支笏湖の千歳川の吐口に架けられた木橋で、のち鉄橋に架け替えられた。大正12（1923）年山線は王子製紙が木材や発電所の建設資材を運搬するため敷設された



千歳に着陸した北海一号機を報道する
小樽新聞。中央が酒井憲次郎飛行士。
大正15年10月24日付



千歳駅
大正15年8月22日、北海
道鉄道札幌線が開業した
(21日説もある)
『千歳・恵庭・廣島三村
銘鑑録』より



千歳飛行場
陸軍飛行隊誘致
のため村民の勤
勞奉仕により拡
張された。
昭和11(1936)年

海軍航空隊の設置を歓迎する
緑門と北海道鉄道の職員。後
の建物は初代の千歳駅舎
昭和14（1939）年



東京日日・大阪毎日新聞社ニッポンは昭
和14年8月26日千歳に到着。翌27日世界
一周を目ざしアラスカのノームへ向け飛
び立った
(毎日新聞社提供)



千歳駅前のコンクリート舗装
された駅前通。
昭和16（1941）年



軍人と新保家の人々
昭和12年、海軍航空基地の建設先遣
隊約300人を迎えた町は下宿先の手
配に奔走した。兵舎ができるまでの
間、多くの家庭が軍人を長期滞在さ
せた（新保隆子蔵）

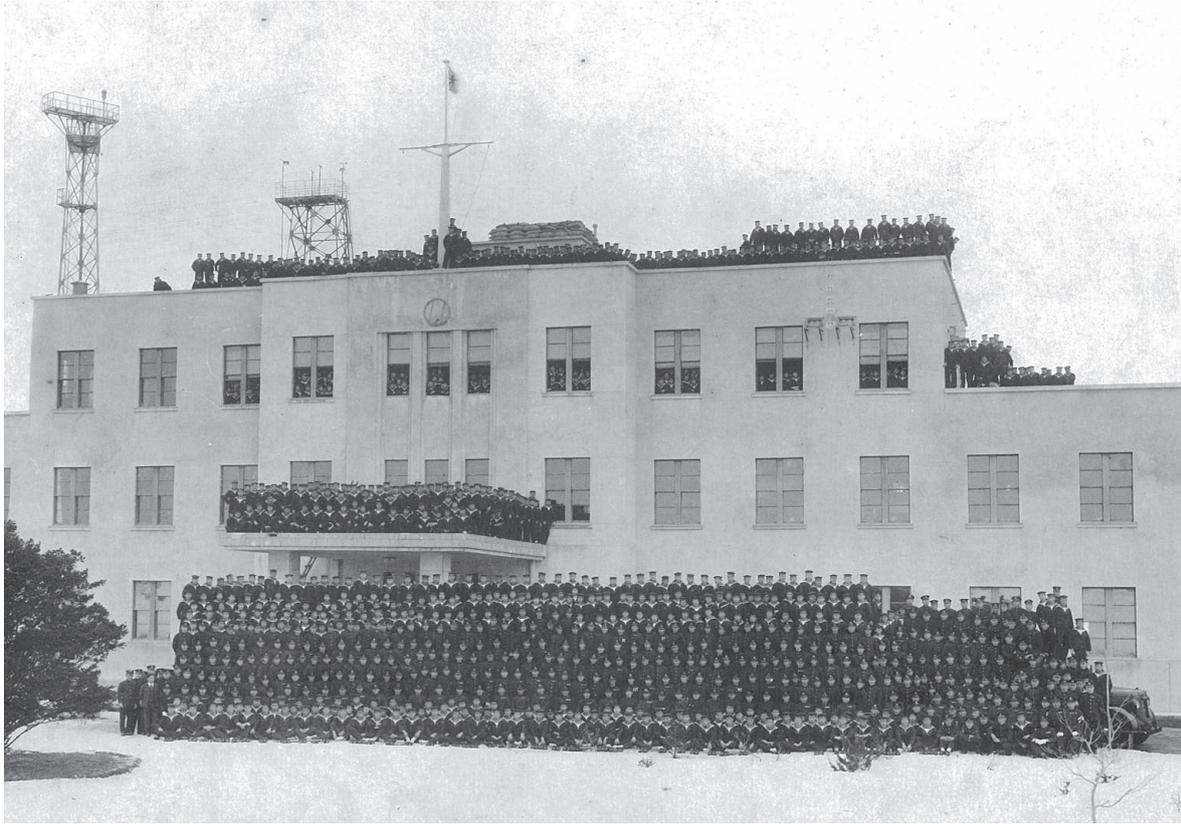
海軍航空隊の開隊式
昭和14年10月、千歳飛行場に
海軍航空隊が開隊し、千歳村
は急速に発展していく



戦時下の千歳座
奥に見えるのが建設されて間も
ない頃の千歳座。右側に千歳川
が流れている



藁布団を作る国防婦人会千歳村分会
昭和11年に発足した国防婦人会千歳村分会は、出征兵士の送迎や慰問など銃後を支える活動を行った。
陸軍部隊に贈るために藁布団が作られた（昭和17年）



海軍航空隊司令部庁舎と大橋部隊の将兵（昭和18年『大東亜戦争記念写真帖』）



第41海軍航空廠女子挺身隊員と年少工具（榊哲雄蔵）

『新千歳市史 通史編 上巻』の発刊にあたって



千歳市長 山口 幸太郎

千歳市は石狩平野の南部に位置し、西には支笏湖と恵庭岳や樽前山など周支笏湖火山が連なり、また、東の石狩低地帯の沼沢地にはかつてオサツトー（長都沼）、ウマオイトー（馬追沼）などの沼があり、遠く二万数千年前の旧石器時代から今日にいたるまで様々な人々が生活をおこなってきました。

この地を、箱館奉行羽太正養（はぶたまさやす）が「千歳」と命名したのは文化二（一八〇五）年、江戸時代中期のことでした。江戸時代初期には鷹を捕獲する鳥屋場として、また、中頃からは鮭漁場で知られていました。異国船の相次ぐ渡来に伴い寛政十一年、東蝦夷地が幕府により仮上知され、日本海と太平洋をつなぐ交通の要衝、「シコツ越え」としてにわか知られるようになります。これが明治六（一八七三）年の札幌本道につながっていくのです。

明治十三年、千歳郡各村戸長役場が千歳におかれ近代の村づくりが始まります。十七年には山口県から開拓農民が集団入植して初期開拓が始まります。しかし、厚く地表を覆う火山灰は開拓の鋤を跳ね返し、農業が定着するには幾多の労苦と努力の積み重ねが必要でした。しかも二十五年に室蘭―岩見沢間に鉄道が開通し、入植者、旅行者の多くは鉄道を利用するようになり、千歳への人々の往来が少なくなりました。ただ二十七年千歳原野植民地の貸下げによって以後入植が大きく進みます。

大きな転機となったのは一本の着陸場の建設でした。「飛行機を見よう」と村人は鋤を振るい、整地し着陸場を築いたのです。大正十五年のこと

でした。航空機が今日のように輸送の主力になるなど夢のような時代のことです。その後、着陸場を拡張し、昭和十四年、海軍航空隊が開隊、それと並行し第一次区画整理を進めるなどまちづくりは急速に進んでいきます。しかし、そうした夢も敗戦によって打ち砕かれます。千歳町の人口は一年余りで七〇〇人以上も減少し、町中の賑わいは失われていきました。戦後は連合国軍米軍の進駐で賑わいを取り戻したものの、その後、撤退、進駐軍要員の解雇など国家や時代のうねりに翻弄されました。しかし、先人たちは意欲を失わず自衛隊の誘致、民間航空の再開、工場団地の造成などその時々々に知恵を出し、まちづくりを模索し新しい道を切り開いていきました。

そうした先人の意思を継承し、千歳市は人口の増加と住宅地の広がりにあわせた都市整備、新千歳空港周辺の整備や企業誘致など様々な側面からまちづくりを進め、北海道の交通・産業拠点都市と大きく変貌を遂げました。

平成二十年の市制五〇周年を迎えるにあたってこうした先達やまちのあゆみを伝えるため、『新千歳市史』の編さんを計画しました。今回発刊される『新千歳市史 通史編 上巻』には自然、先史、古代から近代の終戦までを掲載しています。刊行には新しい市史の基本計画の策定・編さん・編集を担当された編さん委員、編集委員の方々、執筆を担当された自然科学・人文科学の研究者、市民のご協力をいただきここに上梓するはこびとなりました。この間多くの方々から貴重な資料やお話を伺うことができました。ご芳情とご協力に厚くお礼申し上げます。

本書が千歳を知る捷径として、広く市民の皆様方に活用されることを祈念します。

平成二十二（二〇一〇）年三月

例言

一、本巻は、自然環境、先史時代、古代・近代（第二次世界大戦の終戦）までの期間を扱った。但し、自然に関しては終戦で線引きをせず、包括的な記載をしている。

二、本巻記述中、今日の視点から見ても適切でない表現も含まれているが、当時の世相や時代背景を伝えることも自治体史の役割であるとの考えから初出で「」を付し、または長文の場合は改行のうえ、字下げを行い、小さな活字を用いて資料上の表現であることを示した上で使用した。

三、本文中の敬称は略させていただいた。

四、巻末に索引を載せた。

五、文章の体裁等は、左の諸項によった。

(一) 年代表記は年号を用い、必要に応じて西暦を（ ）に入れて示した。同一年号が連続する場合は、年号を省略。月日は、明治五年までは旧暦、同六年以降は太陽暦による。

(二) 史料の引用文は、その部分を「」で囲み、長文の場合は改行のうえ、字下げを行い、小さな活字を用いて本文と区別した。

引用文は出来るだけ原文のままとしたが、俗字、略字、同字は正字に、合字（𠄎、𠄎、𠄎、𠄎など）はカタカナに改め、句読点を付すなど読みやすさに留意した。また破損その他判読不能箇所は□で示した。

(三) 漢字は原則として常用漢字を用い、ひらがなは現代かなづかいとした。本文中の難読と思われる字句には、必要に応じてふりがなを付した。

(四)メートル、パーセント等の単位は、一文字分の省略形（m、%)で表記し、キロメートル、キログラムは、「km」に省略した。

(五) 引用文、図表には原則としてその出典、文献名を記載した。図表には、章ごとの一連の番号を付した。

六、参考文献は、筆者、文献名出版年を表記、各章末や項末尾に記した。必要に応じて出版元を入れた。各自治体史など、刊行物名から発行者が明らかなもの（『新北海道史』など）は発行者を省略した。

頻度の高い史・資料名、千歳町・市が作製・発刊した資料名は本文中においては次のように略した。

『千歳外三ヶ村沿革史』（一九〇六年）↓『三ヶ村沿革史』

『千歳村ノ状勢』（一九一八年）↓『状勢』

『躍進千歳の姿』（一九四九年）↓『躍進千歳』

『千歳市史』（一九六九年）↓『市史』

『増補千歳市史』（一九八三年）↓『増補』

『北海道埋蔵文化財センター調査報告書』↓『北埋調報』

七、次の機関については、本文中において便宜上次のように省略した。

(財) 北海道埋蔵文化財センター↓道埋文

千歳市教育委員会↓市教委

千歳市埋蔵文化財センター↓市埋文

八、本巻編集にあたり、左の機関、施設、団体、個人に資料・情報提供などのご協力をいただいた。厚く感謝申し上げる

国立国会図書館、防衛省防衛研究所図書館、気象庁新千歳航空測候所、陸上自衛隊美幌駐屯地広報班、山口県立図書館、高知県教育委員会、高知県立図書館、愛媛県立図書館、西条市図書館、鳥取県東伯郡東伯役場（現琴浦町）、高知県春野町教育委員会、山口県・籌勝院、北海

道大学附属図書館、北海道立図書館、北海道立文書館、北海道開拓記念館、(財)北海道埋蔵文化財センター、函館市立博物館、函館市中央図書館、苫小牧市立博物館、苫小牧市立中央図書館、恵庭市、恵庭市郷土資料館、札幌市総務局行政部文化資料室、下川町、気象庁新千歳航空測候所・柴波龍・中野菊夫・佐藤正好、北海道教育大学函館校・根本直樹、北海道大学・石城謙吉・天野哲也、札幌大学・本田優子・川上淳、(財)北海道埋蔵文化財センター・畑宏明、函館市市史編さん室・菅原敏昭、名寄市北国博物館・鈴木邦輝、釧路市立博物館・橋本正雄、松前町教育委員会・永田富智・前田正憲、稚内市教育委員会・内山真澄、稚内市立図書館・大橋幸男、日本郵政株式会社郵政資料館・井村恵美、千歳神社・近藤摩人、北海道建築士会千歳支部・北村二穂・石塚雅樹・服部賢二、山三ふじや・榊原武雄、渡部土地開発株式会社・市川隆志、緒方基一(熊本)、原英俊(兵庫)、武藤誠(静岡)、酒井秀雄(新潟)、鈴木和夫・佐藤信貞・横井忠俊(東京)、下川一(埼玉)、横田和平(室蘭)、塩原勇(恵庭)、神埜努・塚越洋史・石田篤郎・高澤勝吉・橋本須美子・橋本憲治・外村みよ・外村和夫・高木崇世芝(札幌)、星良助(小樽)、明石一高・明石砂雄・石川正・岩本政士・押見靖宏・景山豊・葛巻芳太郎・菊池昭・北岡栄吉・木谷稔・熊谷昭・古源孝・榊哲雄・新保哲明・鈴木昭廣・高橋五郎・田中明・塚辺毅・戸田義一・東川孝・東川信雄・藤本敬一・星井田信夫・山本芳郎・宮沢フミ・森満・山野辺茂(千歳)。

九、本事業は、千歳飛行場関連再編関連特別事業として防衛省の再編交付金を受け実施された。

新千歳市史 通史編 上巻 目次

口 絵

発刊にあたって 千歳市長 山口 幸太郎

例 言

第一編 自然と風土

第一章 千歳の地勢 3

気候／地質／支笏湖／支笏湖周辺の植物／河川・湿原／
生物相

第二章 千歳の気候

第一節 気象観測の沿革 8

千歳中央孵化場／王子製紙株式会社苫小牧工場千歳第一
発電所／北海道農事試験場普通作物第四研究室

第二節 気候の特性 11

第一項 気候の変遷 気温／降水量／風向風速／大気現象の初
終日

第二項 千歳の四季 四季の特徴／気象要素、天気等について
の特徴／天気／台風／空港での気象要素の統計

第三節 気象災害史

第三章 千歳の生い立ち 28

第一節 北海道の成り立ち
第一項 地質構造区分 西・南部北海道／中央部北海道／東部
北海道

第二項 北海道の地質構造発達史 日高造山運動／後造山期／
グリーンタフ活動／プレート論

第三項 山地の生い立ち 西・南部山地／中央部山地／東部山
地

第四項 海底地形 43

第二節 千歳周辺の地形と地質
第一項 新第三紀（中々鮮新世）の地質 新第三紀の地殻変
動／千歳鉦山

第二項 支笏湖周辺の地質 概要／支笏火山／支笏カルデラの
形成／後支笏火山活動

第三項 低地の成り立ち 石狩低地帯／沖積平野／湿原／勇払
低地

第四項 札幌周辺の断層と活構造 55

第三節 千歳周辺の地形と地質の特色
第一項 支笏火山の噴火に関連して 埋められた大地・化石林
／火山灰台地・低い分水嶺／四万年前の気候・古砂丘

第四節 生活に係る地質現象 60

第一項 地下水

第二項 土 壤

第三項 温 泉 火山性温泉／非火山性温泉

第四章 生物の分布

第一節 調査・保護活動のあゆみ

支笏湖と周辺の調査／その他の地域の調査／自然の保全

第三節 人為による生物相の攪乱

外来生物

第二節 千歳の植生

第一項 植生変遷 花粉／氷河期の植生

第六章 地名解

第一節 シコツと千歳

第二項 現在の植生 森林植生・針葉樹と広葉樹の分布／草原

植生／植物相の特徴／貴重な植物種と植生

第一項 改名以前のシコツ シコツの意味／諸記録にみるシコツ

第三節 千歳の動物

第一項 哺乳類 食虫目／翼手目／食肉目／偶蹄目／齧歯目／兎

第二項 シコツ川を千歳川に改名 釜加神社の厨子／厨子由来
文の要旨／弁財天を勧請／改名前の千歳（シコツ）／改名後の千歳／箱館の亀田との関連

第二項 鳥類 『千歳市で確認された鳥類一覧』／千歳市全域

／支笏湖周辺地域／北海道さけ・ますふ化場から王子製

第二節 支笏湖をめぐる

第一項 湖岸をめぐる

紙第四発電所／青葉公園／長都沼跡周辺地域／環境の多様性とその保全／「世界の中の千歳」という観点

第三項 両生類 サンショウウオ目／カエル目

第四項 爬虫類 トカゲ目

第三節 千歳川をめぐる（一）

第一項 支笏湖から市街地へ下る

第五項 川と湖の動物 千歳市の河川・湖沼の概要／千歳市の

魚類と水生無脊椎動物／支笏湖流域／千歳川と流入河川

／千歳湖と美々川

第二項 紋別川をのぼる

第三項 千歳川を下る

第四項 ママチ川をのぼる

第五項 千歳川下流の旧長都沼付近

第五章 自然環境とその変遷

第一節 生物から見た石狩低地帯の地理的特性

第二節 都市化による自然環境の変遷

市域中心部～東部／支笏湖周辺

第四節 旧長都沼をめぐる

第一項 旧長都沼をめぐる

第二項 祝梅川をのぼる

第三項 旧長都沼付近

第四項 ケヌフチ川をのぼる

第五節 千歳川をめぐる(二)	140
第六節 太平洋水系	141

第二編 先史から有史時代へ

第一章 先史時代

第一節 先史時代の概要	147
-------------	-----

北海道とシベリア／時代区分／遺物と遺跡／研究史・モースと北海道／河野広道と千歳神社下の竪穴の発掘調査／美沢川流域の遺跡群と行政発掘／遺跡保存／年代測定法・判定法

第二節 文化の移り変わり	156
--------------	-----

第一項 旧石器 北海道の旧石器文化／北海道最古の石器群／祝梅下層遺跡三角山地点／石器製作技術の変遷と北海道の石器／原石の産地と消費地遺跡／旧石器人の生活

第二項 縄文時代

- 一、縄文時代の始まり 植生と古環境／土器の出現／磨製石斧、丸木舟、弓矢
- 二、縄文時代早期の千歳 石刃鎌文化／早期後半の土器群／住居と集落／集落の変遷、美沢川流域
- 三、貝塚と縄文前期 縄文海進と漁撈生活／貝塚に残されたもの・美々貝塚／美々貝塚北遺跡／美沢4遺跡の貝塚／縄文時代前期の土器群／綱文人の墓／綱文・中野人たちの住居・縄文時代前前半期の集落
- 四、縄文中期と生業 縄文文化の地域性／文化の境界地域

／円筒土器上層式と北筒式系土器／地域と交易／大形住居跡／生業・植物採集／丸子山遺跡と環壕／環壕造りの作業工程／環壕の年代と目的／狩猟の技術・キウス5・Tピットと柵列

五、後期と共同墓地 斉一化される土器群／配石遺構・環

状列石や環状石籬／後期中葉の土壙墓群／墓の被葬者と葬送儀礼／環状土籬／朱円栗沢遺跡／キウス周堤墓群／柏木B遺跡／変化する周堤墓／キウス4遺跡／周堤墓外の墓壙／周堤墓を生み出した社会／階層化の萌芽／亀ヶ岡文化の北漸と墳丘墓／副葬品／石棒／赤彩色土器／いろいろな道具

六、縄文文化の終末 亀ヶ岡文化と北海道／盛土墳墓と動物形土製品

／大場利夫の研究／盛土墳墓／動物形土製品／副葬品と装身具／晩期中葉と後葉の遺跡／ママチ遺跡の調査

七、キウスムラとキウス川流域の暮らし

八、美沢川ムラの移り変わり

九、動物意匠のある土器

一〇、交易 ヒスイ／黒曜石／アスファルト

一一、繊維製品

第二章 北方文化の展開

第一節 続縄文文化

第一項 採集と農耕 稲作農耕の始まり／続縄文文化と弥生文化／鉄器の普及／続縄文文化の展開／続縄文文化の縮小

第三章 擦文・オホーツク文化

第一節 北海道の古代 248

第一項 南と北の文化流入と文化変様

第二項 擦文前期の文化

第二節 古代史と蝦夷 251

第一項 蝦夷

第二項 擦文中期の文化 擦文中期の遺跡と遺物

第三項 擦文後期の文化

第四項 中世 陶磁器と出土銭

第四章 先史文化人の形質

第一節 発掘された古人骨 261

第二節 骨に見る北海道人の系譜 262

東と西の縄文・続縄文人／時代差／続縄文人の系譜

第五章 アイヌ文化期

第一節 竪穴式住居からチセ 265

竪穴式住居／アイヌ文化のチセ

第二節 墓 268

第一項 和人

第二項 墓

第三節 チャシコツ 269

フレドイヒのチャシ／アツテウシのチャシ／ペサのチャ

シ／釜加のチャシ

第四節 道具 271

第一項 丸木舟

第二項 アイヌ文化期木製品

第三項 金属製品

第四項 ガラス玉

第五節 アイヌ文化期の生業 277

第一項 鉄器の普及と多様化する生業

第二項 離頭銛

第三項 鍛冶

第六節 美々8遺跡低湿地 281

第一項 美々8遺跡建物跡・「ヒヒ憩所船乗場」シコツ越え

と美々8遺跡／発掘された道跡

第二項 メカジキ線刻画のある櫓

第七節 骨から見たアイヌ 285

擦文時代人から近世アイヌへ／地域差

(本州・北海道比較年表) 290

第三編 古代・中世・近世

第一章 松前藩成立以前の夷嶋

第一節 古代蝦夷と「渡嶋」 293

古代「蝦夷」の問題／「渡嶋」の登場

第二節 渡嶋蝦夷と律令国家 295

阿倍比羅夫の北征と渡嶋ルート／肅慎とオホーツク文化

／「北海道式古墳」と千歳／渡嶋交易と千歳／元慶の乱

と渡嶋蝦夷

第三節 奥羽の戦乱と「夷嶋」 303

「渡嶋」から「夷嶋」へ／前九年の役と「防御性集落」／

後三年の役と奥州藤原氏の支配／藤原泰衡の敗走と奥大
道

第四節 鎌倉幕府と「夷嶋」

征夷大將軍と「夷嶋」支配／東夷成敗権と蝦夷管領／安
藤氏と十三湊／安藤氏の乱と鎌倉幕府／「北からの元寇」
とアイヌ

306

第五節 和人社会の成立とコシヤマインの戦い

『諏訪大明神絵詞』とアイヌ社会／道南十二館の展開と交
易／安藤氏の往還と「三守護体制」の成立／コシヤマ
インの戦い／「始祖」武田信広／勝山館と夷千島王遐又／
アイヌと和人の戦い／蠣崎氏の支配と「夷狄之商舶往還
之法度」

310

第二章 近世の蝦夷地における和人とアイヌ社会

第一節 前期松前藩時代

第一項 統一政権の成立と蝦夷地 豊臣秀吉の朱印状とアイヌ
交易／徳川家康の黒印状

319

第二項 松前藩の成立 松前藩・無高大名／無高大名の財政／
商場知行、烏屋場知行／胆振鉏・シコツ／シコツ場所

第三項 シヤクシヤインの戦い 商場知行とアイヌ社会／シヤ
クシヤインの戦い／オニビシとシコツ

第四項 場所請負制と蝦夷地 享保年代の松前藩財政事情／場
所請負制のはじまり／場所請負制のひろがり／場所領域
の争い／藩主直領の請負化／漁川の流送／場所請負制の
あり方の変化

第二節 第一次蝦夷地幕僚時代

第一項 クナシリ・メナシの戦い クナシリ・メナシの大蜂起
／「蜂起」への松前藩の対応／江戸幕府の対応／夷酋列
像

355

第二項 幕府の蝦夷地政策 ロシアの極東進出と対日接近／赤
蝦夷とアイヌ／シヤバーリンの来航と松前藩／幕府の蝦
夷地調査・御試交易

第三項 幕府の蝦夷地直轄 松平定信とラクスマン来航／ロシ
ア、イギリスの接近／蝦夷地幕領化・開国政策の変転／
シコツ場所とユウフツ場所／レザノフ来航からゴロヴニ
ン事件まで／直営と場所請負制度

第四項 松前家の復領 復領と万石格／知行制の改訂／松前藩
の蝦夷地警備体制／経済の発展と藩政

第三節 幕府の蝦夷地再直轄

第一項 開港と再直轄 アメリカ・ロシアの接近／幕府の蝦夷
地再直轄と六藩分領／箱館奉行の蝦夷地経営／幕末期の
アイヌ社会

437

第二項 幕末期の千歳と山田文右衛門 幕末期の千歳／山田文
右衛門／薪炭

第三項 蝦夷地経営の終焉

第四編 開拓の開始と近代社会の成立

第一章 明治初期の千歳

第一節 明治維新と蝦夷地 ……………

第一項 維新政権と蝦夷地 維新政権の成立／蝦夷地問題に対

する建議／高野・清水谷の再建議／「蝦夷地開拓ノ事宜

三条」／維新政権の蝦夷地政策

第二項 箱館裁判所と箱館府の設置 箱館裁判所の設置／清水

谷総督への引継ぎ／箱館裁判所の機構と人事／秦一明(斗

鬼三)の事蹟／箱館裁判所の布告／「政体書」と箱館府

への改称／箱館府の地域行政／箱館府の機構改革

第三項 勇払役所の設置 箱館府と地域行政の推進／勇払役所

の設置

第二節 北海道・国郡の設定と開拓 ……………

第一項 分領支配と高知藩 分領支配の前身／分領支配の開始

／分領支配の出願状況／高知藩の事情／高知藩の支配地

第二項 高知藩の調査と開拓 岸本円藏の報告書／北代忠吉の

書翰／高知藩の開拓／高知藩の漁場経営

第三項 分領支配の廃止と高知藩の借財 分領支配の廃止／

高知県の負債問題とその処理

第四項 戸長役場設置以前の行政 明治初期の地方行政制度

第二章 開拓使・三県の北海道経営

第一節 開拓使の設置 ……………

第一項 蝦夷地から北海道へ 蝦夷地の改称問題／松浦武四郎

の意見

第二項 開拓使の設置と職制 維新政権と「使」制度／開拓使

の位置／開拓長官の人事／開拓使の管轄地域／開拓使初

期の行政機構／開拓使機構の再編成／「郡区町村編成法」

第三項 札幌本府の建設 開拓使事業の時期区分／札幌本府の

建設構想／「石狩大府指図」と「石狩国本府指図」／札

幌本府の建設と衛星村落

第四項 場所請負制の廃止と漁場持 場所請負制度の起源／場

所請負制の廃止問題／請負人の反対と漁場持制／漁場持

制の廃止

第五項 開拓使十年計画 黒田次官の「十月建議」／開拓使定

額金の決定／ケプロンの提言／黒田次官の政策／十年計

画の事業費

第六項 開拓使出張所の設置 勇払郡開拓使出張所／開拓使千

歳出張所／勇払郡役所の廃止／村役人

第二節 開拓使の移民政策 ……………

第一項 移民政策の展開 明治初期・北海道の人口構成／移民

問題とケプロンの提言／開拓使の移民政策／さまざまな

移民保護規則／「移住農民給与更正規則」の制定／開拓

使による移民政策の特徴

第二項 札幌本道の建設 札幌本道の意義／金子堅太郎の開拓

使批判／工事請負人・平野弥十郎／札幌本道の開削工事

／札幌本道と千歳

第三節 三県の設置と千歳 ……………

第一項 開拓使の廃止と三県の分置 開拓使の廃止／函館県・

札幌県・根室県の設置

第二項 札幌県と千歳郡 札幌県の行政機構／田中不二磨の復

命書／勇払外五郡役所と千歳郡／開拓使事業の分割／農

第三項 商務省北海道事業管理局の設置／札幌県の移民事情
山口団体の入植 山口団体の入植経過／山口団体の開

墾状況／その後の山口団体／第二次山口団体

第三章 戸長役場と千歳村の行財政

第一節 郡区町村制と戸長役場

勇払外五郡郡役所／千歳郡各村戸長役場の設置／初代戸

長石山専蔵／二代目戸長秦一明／明治天皇巡幸／戸長役

場の役割／二代目戸長の死／三代目戸長太尾長祥／五代

目戸長三木勉／村勢

目戸長三木勉／村勢

第二節 千歳村の行財政

札幌郡外四郡の中の千歳郡／郡内の税・財政の状況／千

歳村外三ヶ村の財政状況／税制度

幕末の都市構造 橋梁・道路／明治初期の都市構造 橋

第三節 幕末・明治初期の都市構造

梁・道路／千歳川の航行

郵便業務のはじまり

郵便路線の開設／千歳郵便取扱所／大正期の郵便事業

第四節 郵便業務のはじまり

草創期の暮らし

開村草創の戸口と千歳

第五節 草創期の暮らし

職業構成

住宅事情と衣生活 住居／衣服

食生活

アイヌ民族の諸相

北海道開拓とアイヌ民族

第六節 アイヌ民族の諸相

北海道庁設置と「北海道旧土人保護法」の制定 北

北海道庁設置と「北海道旧土人保護法」の制定 北

北海道庁と開拓政策の転換／開拓とアイヌの強制移住／千

歳原野の「旧土人保護地」存置／第五議会の場合／第八

議会の場合／第十三議会と保護法の再提案

千歳のアインヌ学校設立問題 橘戸長の請願／制定後の

保護法

千歳地方のアインヌ民族

明治初年の千歳アインヌ 『北行日記』の千歳アインヌ／

千歳アインヌの統計的実態／アインヌコタンの行政／アインヌ

伍長の人選／千歳アインヌの鮭漁問題／内村鑑三の「復命

書」／千歳アインヌと狩猟／開拓使の捕殺奨励

明治二十年代の千歳アインヌ 千歳村アインヌの状況／明

治二十四年の千歳アインヌ 「星座」と千歳アインヌ

553

547

544

538

534

520

第七節 産業

第一項 農業

北海道庁の設置と開拓の進行 北海道庁の設置／北海

道庁の機構と地方組織／勇払郡役所と千歳郡／北海道庁

の開拓政策／殖民地の選定事業／殖民地区画と開拓農村

／千歳地方の殖民地選定事業／千歳原野の区画測設／「ケ

ヌフチ」原野／土地の貸し下げ処分／「北海道国有未開

地処分法」下の土地処分

移住政策と移民 近代の北海道移民政策／「北海道移

民ノ現状及其保護奨励方策概要」の指摘／北海道移民の

統計的概観と出身地域／移住の時期と形態／千歳地方への移民／関喜左衛門と森井平兵衛／「胆振国千歳郡千歳原野未開地一万五千坪開墾収支計算」／開拓農民・入植状況	三、開墾と村落の動向（草創期の村落形成） 長都村の開拓／千歳村の開拓／東千歳の開拓
四、農業生産 水田開発／稲作／麦作の状況／用水溝自費開墾願	五、畜産業の展開 牧畜／吉野牧場
第二項 水産（鮭・鱒） 人工孵化試験／種川／伊藤一隆／千歳鮭鱒人工孵化場／インディアン水車	第三項 工業
一、諸産業の始まり 美々缶詰製造所址／鹿猟／美々缶詰製造所の設置／軸木工場／精米	二、発電所 王子製紙工場の誘致／千歳川発電所／発電所設置の影響
第四項 林業	一、国有林（官林） 国有林の始まりと管理／山林取締と「山林監護条例」制定／官林払い下げ
二、御料林と変遷 御料林／御料河川の支笏湖問題	三、明治期の林産物と椎茸栽培
四、千歳村（町） 有林 学田／村（町） 有林	五、官林の開放
六、千歳川の流送	

第八節 宗教と祭祀	640
第一項 国家神道と神社 明治維新と国学／神仏判然令、そして廃仏毀釈へ／教導職の設置／北海道における神仏分離と廃仏毀釈／千歳と神仏分離／神道儀礼・招魂祭・祭典／尊皇攘夷運動と水戸学、そこからの派生／招魂社の誕生と国家神道への発展	
第二項 仏教諸宗派の活動と寺院の創立 仏教の北海道開拓／寺院開教の背景／説教所建設から寺号公称まで	
第三項 明治以降の千歳神社 戦争、そして戦後の千歳神社	
第九節 温泉	647
保老加温泉／鶴の湯鉱泉松原旅館／八幡温泉／丸駒温泉	
第一〇節 医療	651
医療のはじまり／公立勇払病院／治療費／村医の配置／産婆と出産／伝染病対策と衛生組合	
第一一節 災害	656
蝗害	
第一二節 警察	657
開拓の進展と警察制度の確立／郡区長と警察署長の兼任／千歳巡査駐在所の設置と新築／各駐在所の変遷	
第一三節 教育	659
第一項 教育の先駆け 藩校と寺子屋／寺子屋の開設状況／寺子屋の教育	
第二項 近代的教育制度の発達 学制の公布／教育令の公布／改正教育令の公布／近代的教育制度の確立／小学校令の公布／寺子屋から公立千歳教育所へ／千歳小学校の開設	

／千歳尋常小学校になる

第四章 日清・日露戦争から第一次世界大戦

第一節 日清戦争と村民

第一項 近代の北海道と防備体制

北海道の防備／屯田兵制度の創設／山県有朋の意見書／日清戦争と徴兵令の施行／三国干渉／臨時第七師団の復員／渡島他四カ国への徴兵令施行

第二項 第七師団の設置と徴兵令

第九議会における曾我子爵の質問／「北海道の兵備」について／「十二師団設置の勅令」発布／第七師団の設置／徴兵令の施行と千歳地方／「札幌郡役所兵事係の繁忙」

第三項 札幌聯隊区管内における徴兵検査の結果

明治二十年の場合／明治三十一年の場合

第四項 明治中頃の村勢

千歳村外三ヶ村戸長役場／戸長役場から町村制へ／千歳村役場／電信

第二節 日露戦争と村民

第一項 開戦から講和まで

日英同盟／日露戦争の勃発／作戦計画と戦局の推移／第七師団と旅順攻囲戦／戦死者と葬儀／戦争下の北海道／ポーツマス条約

第二項 戦争下の千歳村

日露戦争と千歳村／明治四十年代の村勢／徴兵／志願兵／軍資金献納

第三節 韓国併合から第一次世界大戦

第一項 帝国主義政策と村外膨張

韓国併合／大正デモクラシー／対華二カ条要求／ワシントン海軍軍縮条約

第二項 大正期の村勢

二級町村制時代／村会議員／大正の村

勢／烏柵舞地区区画変更問題

第四節 まちなみと村民生活

第一項 当時の千歳のまちなみ

第二項 市井の人々のくらし

衣食住／祭祀その他／学校生活／大戦景気／戦後恐慌／物価の動き／愛国婦人会

第五節 交通路の整備

第一項 道路の整備

長都街道／釜加街道／漁街道／千歳由仁道路／三川道路／孵化場道路／アウサリ道路／恵庭街道／風防街道／支笏湖へ向けた道路

第二項 千歳の鉄路

輸送機関の整備／王子軽便鉄道／北海道鉄道札幌線開業

第三項 着陸場（北海第一号の着陸）

北海道における航空の始まり／飛行場の誘致／北海道の新聞社機／着陸場建設の発端／着陸場の建設／勤労奉仕／着陸場の位置／一番機の着陸／北海第一号の機種／酒井操縦士／新聞空中戦と酒井の最期

第六節 産業

第一項 農業

一．農業の状況

第一次世界大戦の頃／第一次世界大戦後

二．千歳村農会・産業組合

千歳村農会／産業組合

三．大正・昭和期の村落形成

長都・釜加地域のその後の開発／上長都地域への入植／千歳（末広）地域の発展／アウサリ地域のその後の発展／ネシコシ地域の発展／オリカ・キウス地域へのその後の入植／ケヌフチのその後の発展

四、畜産 畜牛／豚／鶏／緬羊

第二項 水産業 カバチエツプ・姫鱒／支笏湖孵化場／卵移植

第三項 林業 木材の流送と富士製紙江別工場／薪炭／「山神」の碑／泉沢／学田／三百万坪／焼き子／薪炭の搬送

第七節 宗教と祭祀

第一項 民間信仰と宗教生活 碑 家畜報恩碑・馬頭観音碑・招魂碑等

第二項 信仰生活の諸相 孟蘭盆会と盆踊り／葬儀

第三項 神社 根志越八幡神社／釜加神社

第四項 寺院 極楽寺／千正寺／妙心寺／満願寺

第五項 教派神道協会 天理教／祝梅分教会／漁分教会

第八節 観光

第一項 支笏湖・国立公園設置に向けた運動 国立公園運動／千歳村の請願／支笏湖が北海道の一八景勝地に選定

第二項 支笏湖保勝会

第九節 医療

第一項 王子病院千歳発電所診療所 王子病院の誕生／千歳発電所診療所の開設

第一〇節 消防

第一項 消防組 「消防組設置準則」の制定／千歳消防組の創設

第一一節 教育

第一項 初等教育行政の転換 簡易教育所の開設／特別教授所の開設

第二項 地域の学校沿革 千歳小学校／幌加簡易教育所／木白簡易教育所／嶮淵簡易教育所／長都簡易教育所／近唐簡

易教育所／阿宇砂里分教場／烏柵舞特別教授所

第五章 日中戦争と海軍航空隊

第一節 政党政治と軍部

第一項 昭和前期の村勢 村役場／村会／千歳村と飛行場／一級町村制時代

第二項 政党政治 護憲三派内閣の成立／普通選挙法と治安維持法の成立

第三項 軍部 張作霖爆殺事件／満州事変の勃発／満州国の成立／五・一五事件と政党政治の終焉／国際連盟の脱退／二・二六事件／盧溝橋事件から日中戦争へ／張鼓峰事件とノモンハン事件

第二節 世界恐慌

世界恐慌と日本／井上財政と昭和恐慌／高橋財政と景気回復

第三節 海軍航空隊とまちづくり

第一項 飛行場拡張と陸軍飛行隊誘致 飛行場設置の請願と二番機／飛行場の建設／陸軍飛行隊設置の請願と航空特別演習／陸軍特別大演習と天皇行幸／札幌飛行場

第二項 社会資本の整備

一、市街地の拡大と都市景観 市街地の伸張／千歳第一土地区画／海軍宿舎／第四十一海軍航空廠工具寮／上水道設備／舗装道路

二、昭和初期の千歳 鉄道開通の波紋／財政状況／飛行場と経済更生

第三項 海軍航空基地決定の経緯 海軍軍縮と邀撃思想／海軍

773

771

769

766

760

799

796

781

と北方海域／日中戦争と海軍軍戦備・千歳航空基地決定	
第四項 海軍航空基地の建設 海軍飛行場適地調査／航空基地の建設／世界一周機「ニッポン」	
第四節 第二次世界大戦	829
第一項 日米対立の激化 独ソ不可侵条約とドイツ軍ポーランド侵攻／第二次世界大戦と日独伊三国同盟／日ソ中立条約と南進の決行／独ソ開戦と南部仏印進駐	
第五節 町民生活	832
第一項 社会の諸相 千歳村一級町村制施行／町制へ移行／海軍報国号飛行機の献納／戦時期の婦人団体／防空演習／戦場から帰らなかった人々	
第二項 戦時下の町民生活 町内会の整備／料亭・割烹・三軒町／ラジオ／映画館	
第三項 文化（国指定天然記念物アイヌ犬） 北海道犬の分類・特徴／北海道犬保存会の誕生	
第六節 産業	847
第一項 戦時下の農業	
一．農業の状況と農事実行組合 昭和初期／昭和十年代／戦時下、終戦時における農業の動向／農事実行組合	
二．長都地区の開発と学生義勇軍 学生義勇軍の結成／日本海・太平洋運河構想／大学排水路	
第二項 林業	
一．林業の諸相 冷害凶作と防風林の造成／学生義勇軍の林道設計	
二．森林組合と森林防火組合 千歳町森林組合／森林防火	

組合	
三．御料林の諸相 御料林の伐採／御料林と王子発電事業	
四．町有林の諸相 学田団地の伐採／ママチ団地の伐採／オリイカ団地の伐採／コムカラ団地の伐採	
五．薪炭	
第三項 鉱業（千歳鉱山と朝鮮人労働者） 千歳鉱山の開発／製錬所の建設と鉱害問題／千歳鉱山の労働者／朝鮮人労働者の「移入」政策／千歳鉱山の朝鮮人労働者／朝鮮人労働者の抵抗／千歳鉱山の休山／千歳鉱山軌道	
第七節 宗教と祭祀	864
大禪寺／真光寺	
第八節 消防	865
警防団	
第九節 警察	866
千歳警部補派出所	
第一〇節 教育	867
第一項 地域の学校沿革 千歳小学校／新嶮淵尋常小学校／根志越特別教授所／千歳鉱山特別教授所	
第六章 太平洋戦争開戦	
第一節 日米交渉	869
ハル四原則と日米諒解案／南部仏印進駐と対日石油全面禁輸／帝国国策遂行要領／東條内閣の成立とハルノート	
第二節 戦時体制の形成	872
第一項 国家総動員 戦時体制のはじまりと国家総動員法／進む国民統制と国民精神総動員運動	

第二項 戦時統制と町民 憲兵隊／食料難と町民生活／三川地区行政区画問題／千歳町防空本部救恤部業務要綱／出征と町葬

第三節 千歳航空基地

第一項 千歳海軍空隊と緒戦 航空隊の開庁準備／航空基地の開庁／航空隊の配備機／航空隊の開隊／開戦 ハワイ・マレー沖海戦／ウェーク島攻略／ラバウル攻略／陸軍の南方作戦／セイロン沖海戦、珊瑚海海戦、ミッドウェー海戦／ソロモン諸島の攻防／七〇三空・二〇一空と改称／航空隊の終焉

第二項 第二・第三航空基地の建設 第二・第三千歳の建設の背景／第二・第三千歳の建設（十八年まで）／第二・第三千歳の建設（十九年以降）

第三項 航空基地の動き 第四十一海軍航空廠／女子挺身隊／工員養成所／航空廠の作業の実際／戦争終結後の航空廠／昭和十七年までの動き／昭和十八年の動き／鉄道の国有化／昭和十九年の動き／基地の防空体制／掩体壕／特殊地下壕／第四十一海軍航空廠分散工場／航空隊分散工場／昭和二十年の千歳基地／剣作戦天雷部隊／千歳空襲／特別攻撃隊

第四節 通信とマスメディア

千歳電話中継所／『北海タイムス』と『小樽新聞』／両紙の販路拡張競争／『北海道新聞』の創刊

第五節 戦時下の教育

第一項 学校教育 国民学校令と軍国教育

881

第七章 終戦

第二項 青少年教育 青年団体／青年訓練所／青年学校

第一節 終戦

第一項 絶望的抗戦へ 戦争指導体制の動揺／東條内閣の崩壊／「捷号」作戦の決定／連合艦隊壊滅す

第二項 沖繩戦と千歳出身の兵士たち 硫黄島から沖繩へ／凄惨な沖繩戦／千歳出身の兵士たち／沖繩戦と住民たち

第三項 ポツダム宣言受諾へ 鈴木内閣の成立と和平工作／原爆投下とソ連参戦／ポツダム宣言の受諾と敗戦

第二節 戦後混乱期の街と行政

第一項 終戦の空 終戦の千歳基地と終戦処理／残存機と緑十字飛行／米軍の動き／カーチス・ルメイ／千歳所在部隊の解隊／米軍進駐前日

第二項 それぞれの終戦 終戦の日／海軍基地からの物資放出／学校／農家／郵便／消防

第三節 終戦処理

軍人遺家族／外地引揚者／同胞援護会

編さん委員、編集委員

執筆者一覧

索引

題字 千歳市長 山口 幸太郎

992 968 967

962

946

938

932

930